国語プリントNo.（　　）　　年　組　番　名前　　配布日　月　日　曜

羅生門　下人と老婆の象徴

【導入】

下人と老婆はそれぞれ何の象徴かということを以前に考えた。優れた物語は、読み手の状況に従って幾通りにでも読めるものである。しかしそれでは授業が収束しないので、これからの授業では次の象徴であるという前提で『羅生門』を読んでいくことにする。

【前提】

下人は「生」の象徴で、老婆は「死」の象徴である。

たとえばこのように見ていくと、それぞれの象徴に関連づけられた表現がいくつもあることに気づく。その表現を見つけていこう。見つけていくと、作者はその象徴を意識して表現しているということがわかってくる。

【目的】

それぞれが何の象徴かという前提をもとに関連する表現を見つけることで、物語中の象徴の使われ方を理解する。

【目標】

できるだけ多くの「下人＝生」、「老婆＝死」という関連づけの表現を見つけ、指摘する。

【ヒント】 自分の持つイメージを出しみよう。

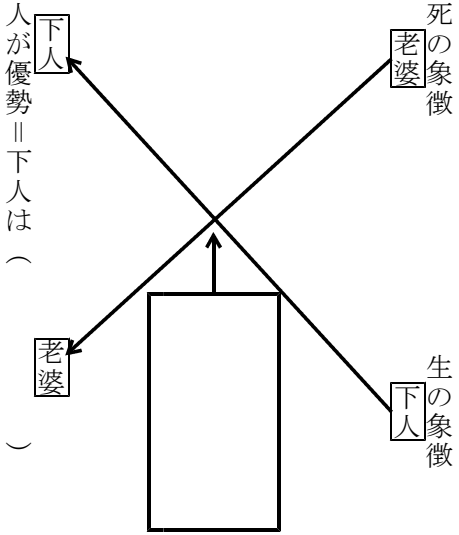
「生」のイメージ

「死」のイメージ

これらのイメージと通じている下人・老婆に関する描写、行動の描写を見つける。
《教科書プリントなどに線を引く時の記号》
「生」……「A」　「死」……「D」

【優劣関係図】

下人が劣勢＝このままでは下人は（　　）



下人が優勢＝下人は（　　）

copyright © 2011 片桐史裕